



国道325号線

熊本発 グリーンウオッチング

昨年十一月四日、県立劇場で、県内をはじめ全国から千五百人を超える人々の参加を得て、「花と緑のまちづくり——いま、なぜ緑なのか」をテーマに、緑化推進シンポジウムを開催しました。シンポジウムは、熊本交響楽団のホルン四重奏による「狩人の合唱」で幕をあげ、いままぜ緑なのかという問題提起のもとに全員で緑の大切さを確認し合いました。そして、特に、このシンポジウムの最後に、熊本グリーンウオッチング宣言が全国に向けて発信されました。

くまもと 緑化推進 シンポジウム



熊本グリーンウオッチング宣言では、「いま本当に謙虚な心で、私たちの方から『緑』に近づいてみませんか。いま、本当に素直な心で、『緑』に触れてみませんか。そこでは、素晴らしい『緑の知恵』が発見できるはずです。」とよびかけています。緑に近づき、緑を体験し、緑の知恵を発見すること——グリーンウオ

明日、熊本の緑。

ウッチング。これは、これから熊本で新しい緑を創り出していくためにも極めて重要なことです。熊本から発信されたこのグリーンウオッチングを全国に広げていきたいと考えています。

県では、緑を守り、緑を育て、そして新しい緑を創っていくため、昨年九月から新しく環境文化企画室を設置し、種々の計画の具体化を図っています。そして、今年十月頃を目処に全県公園化構想ともいうべき「緑の十か年計画」をつくることにしています。緑には、いろいろな種類があり、いろいろな働きがあります。いろいろな種類の緑が持っている働きが最大限に発揮されるよう、緑の姿を熊本の県土全体に描いてみようというのが、全県公園化構想「緑の十か年計画」です。この中で、二十一世紀を目指し新しい時代に対応した緑づくりを進めて行くことにしています。これは同時に、豊かな人間生活の基盤を県土全体で確かなものにしていくということでもあります。

緑の計画づくりとあわせて、目に見える緑を着実に多くしていくことも必要です。空港から熊本市に至る現在建設中の道路、県道熊本益城大津線、いわゆる新空港道路は、空港までの全線約十一キロに、県木であるくすの木を植えることにしています。

数年も経つと、人々は空港から高いくすの並木の間を通って熊本市内にはいつてくることとなります。

緑に、参加を。

緑の十か年計画の出発の年である六十年には、「広げよう緑の文化」をテーマに、全国植樹祭を熊本で開催しますが、県では、全国植樹祭を新たな緑化への出発の祭典としたいと考えています。また、六十一年には、花と緑の国体ともいわれる全国都市緑化フェアの熊本開催が決まりました。この都市緑化フェアは総合的な都市緑化の推進のために開かれるものですが、更に、緑の健康、緑のコミュニケーション、緑のレクリエーション、緑のスポーツ、緑の文化などの幅広い視点を加え、全国からの参加によるイベントとして展開することになっています。

自然の緑、都市の緑、まちやむらや地域の緑、どれ一つとっても、それを守り、育て、更に新しく創っていくには、私達県民一人ひとりの取り組みが必要です。私達県民一人ひとりが、今の、そしてこれからの緑のあり方を考え、緑化に取り組んでいくことにより、産業や文化をはじめ、熊本のこれからの発展を支える豊かな緑が創り出されると確信します。

(環境文化企画室)